

**いわて未来づくり機構 医療福祉連携作業部会の
実績報告・活動計画（29.5.29）**

テーマ：医療と福祉連携体制の整備－見守りを核とした被災地の生活支援型コミュニティづくり

座長：小川 晃子

担当機関：岩手県立大学

報告要旨

- ①釜石市平田地区では、米国クアルコム社の助成金と岩手県立大学復興加速化プロジェクト研究費採択により、社会福祉施設を見守り拠点とした重層的見守り体制の実証実験を行った。人的見守り（民生児童委員、買い物支援のまごころ宅急便）とICT活用見守り（おげんき発信、血圧測定見守り、服薬支援見守り）を重層化し、見守り情報を一元化するためにポータルサイトをモデル的に運用した。
- ②日本遠隔医療学会のICTを活用した地域包括ケアのシンポジウムを企画し、釜石の事例を報告した。また、内閣府のシンポでも発表し、県内外に政策提言をしている。
- ③米国クアルコム社の研究助成は、Round IIが終了したことから最終ステージのRound IIIへの応募を行い採択された。（平成29年度に活用）

1. 平成28年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

- | | |
|-------|---|
| ①部会 | ①ほぼ1ヶ月に1回開催し、プロジェクトの運営・点検を行った。 |
| ②実証実験 | ②平田地区では平成27年10月から重層的見守り実証実験を継続している。ポータルサイトは、平成28年9月までで実証実験を終えた。
また、一関市に実証フィールドを拡大した。 |

2. 平成28年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成28年度事業計画	平成28年度事業実績・成果・課題
①市町村の地域包括ケア体制づくりに資する政策提言を行う	<p>【実績・成果】</p> <p>①釜石市の地域包括ケアに平田地区モデルを提示し関与した。 また、平成28年度は新たに一関市にフィールドを拡げ、内陸ではじめてできた災害公営住宅での孤立防止とコミュニティづくりに重層的見守りを活用した。</p>
②産学官の検討体制を維持	②岩手県立大学教員（社会福祉・看護・ソフトウェア情報）、盛岡赤十字病院・盛岡市立病院医師、岩手県（保健福祉部）、岩手県社協、(株)NTT

<p>③外部資金を継続的に確保</p> <p>④成果報告・普及</p>	<p>ドコモ、(株)ヤマト運輸等の産学官の検討体制でプロジェクト推進</p> <p>③米国クアルコム社助成金、岩手県立大学復興加速化プロジェクト研究費を活用</p> <p>④内閣府消費委員会シンポジウムや、国民生活センター発刊紙等で全国的に広報した。また、遠隔医療学会において論文投稿やシンポを開催している。</p> <p>【課題】 釜石市はじめ県内市町村行政の地域包括ケアシステム構築への具体的実装が、残された課題である。</p>
-------------------------------------	---

3. 平成29年度の活動計画

(1) 目標・出すべき成果

岩手県内市町村の地域包括ケアシステムづくりに対し、医療・福祉が連携した重層的・一元的な見守り体制づくりのモデル事例を提示し、政策提言をしていく。

釜石市、一関市での重層的見守り実証試験を継続し、岩手県内での取り組み拡大に資する。

(2) 活動計画

①産学官の検討体制を維持

- ・岩手県立大学教員、医療関係者（遠隔医療協会等）、岩手県、岩手県社会福祉協議会、(株)NTTドコモ、(株)ヤマト運輸等による研究会を維持
- ・研究会（部会）を定期的を開催

②外部資金の活用

- ・米国クアルコム社の助成金を受け「重層的見守りの構築のための先導的研究」を、釜石市平田地区をフィールドに実施
- ・岩手県立大学復興加速化プロジェクトでは、その他地域をフィールドに実施

③成果報告・普及

- ・日本遠隔医療学会2017年度研究大会で見守り分科会として報告（9月）
- ・県内複数の地域でフォーラム・シンポジウム等を開催し、市町村のモデルとして実装されるよう情報提供を行う